

Y07b 科学広報におけるトレーディングカードゲームの活用

矢部 あずさ、吉戸 智明 (筑波大学計算科学研究センター)、入江 敦子 (高エネルギー加速器研究機構)

科学広報の評価について述べる。広報の目的は「組織と社会のより良い関係を構築し、組織の存続・発展に寄与すること」である。計算基礎科学連携拠点 (JICFuS) は、その目的を達成するために広報戦略を策定し、具体的手段の1つとして、量子色力学カードゲーム『クォーク・カード・ディーラー (Quark Card Dealer)』を作成した。JICFuS (代表機関: 筑波大学計算科学研究センター) は、文部科学省 HPCI 戦略プログラム分野5「物質と宇宙の起源と構造」を運営している。これは全国で10以上の大学・研究機関が参画し、京速コンピュータ「京」を使って素粒子、原子核、そして宇宙物理の計算科学を推進するプロジェクトである。

カードゲームの対象は「中高生を中心に幅広く」とし、カードゲームのねらいを「クォークというものがある」「クォークには色と呼ぶ性質がある」「JICFuS という組織がある」などを知ってもらうことと設定した。

KEK 一般公開や理研神戸一般公開、サイエンスアゴラなどのイベントに出展した結果、2011年度は約2750人の参加を集めた。一次的な情報発信 (イベント出展6カ所、カード配布数約4万枚、JICFuS ウェブサイトへの掲載など) および、カードゲーム参加者などによる二次的な情報拡散 (Twitter、ブログやウェブサイトへの情報掲載など) データをもとにカードゲームの広報評価を行い、広報戦略の達成度測定を試みる。